

主 題：クリスチャン 6

聖書箇所：コリント人への手紙第一 1章7節

私たちは私たちクリスチャンに神が与えてくださった数々の祝福を見て来ました。どんなに多くの祝福を私たちはいただいているのか？どんなに私たちクリスチャンは恵まれているのか？そのことを知らなければ私たちの感謝は成長しません。私たちの生き方も変わって来ません。なぜなら、私たちが喜んで主に従っていこうとするその動機は、神への感謝であり神への愛だからです。ですから、パウロはまずこの手紙の1章に、クリスチャンはどれ程多くの祝福をいただいているのかと、その祝福を記しています。10個の祝福を私たちは学び始めています。

☆「クリスチャン」に与えられた10の祝福

1. 神に属する者 2節

かつてはサタンの子ども、神に逆らう者でした。しかし、感謝なことに、神は私たちをそこから救い出してくださって神に属する者へと、私たちを生まれ変わらせてくださったのです。私たちは神の子どもです。

2. 神によって聖められた者 2節

すべての罪を完全に永遠に神が聖めてくださったのです。それが私たちクリスチャンです。

3. 神から恵みと平安をいただいた者 3節

私たちは神から神がもっておられる平安と豊かな恵みを与えられました。ですから、私たちはどんなときにもこの神の平安をもって生きることができるのです。

4. 神によって救われた者 4節

5. 神によって祝福された者 5節

6. 神の真理を証する者 6節

神の真理によって救われた私たちに神はすばらしい務めをくださった。それは神の真理を人々に分け与えていく、人々に宣べ伝えていくということです。前回も見たように、そのことを私たちは私たちのことばによって為し、同時に、自らの生き方によって明らかにしていくことを教えられました。私たちが、私たちの神が本物であり、この神が聖書を通して約束してくださった救い、罪の赦しが本物であることをどのようにして証明するのか？クリスチャンの皆さん、それは私たちが神が言われるように、日々キリストに似た者に変えられていくことによって明らかにされていくのです。聖書が言うように、クリスチャンとは神の恵みによって救われ、そして、キリストに似た者へと変えられていく者です。

もちろん、その変態のプロセス、過程は時間のかかるものです。私たちが思う以上に時間がかかります。もっと早く信仰が成長すれば…とだれしも期待します。しかし、そうはいかないでしょう？日々、神とともに歩み続けることによって、徐々に徐々に、神は私たちをキリストに似た者に変えていってくださるのです。しかし、私たちがそのように日々変えられることによって、私たちのうちにおられる神が確かに約束されたように、「私たちを変え続ける真の神だ」ということが明らかにされるのです。そのことをパウロは私たちに教えたのです。感謝なことに、そのような働きはクリスチャンであるあなたのうちにもうすでに始まっているのです。キリストに似た者に変えるという働きはあなたのうちにも始まっている、だから、神がお喜びになるように、みことばに従って歩み続けていくことです。失敗したら何度でも悔い改めて主のみことばに従い続けていくときに、主があなたを通してご自身を明らかにしてください。

ですから、私たちは恵みによって救いに与っていますが、同時に、このすばらしい神を伝えるという特権をいただきました。こんな祝福を私たちはいただいたとパウロは教えてくれました。そして、七つ目に見るのは7節の所です。

7. 神から賜物をいただいた者 7節

7a節「その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けるところがなく、…」、七つ目の祝福は、神はクリスチャンに神の賜物を与えてくださったということです。ですから、私たちクリスチャンは神の賜物をいただいた者たちです。7節に「どんな賜物にも欠けるところがなく、」と「欠ける」ということばがあります。このことばは「足りない、劣る」という意味です。ですから、パウロはコリント教会の人々に対して、あなたがたの教会のクリスチャンたちと他の教会のクリスチャンたちの賜物には何も変わりがないと言うのです。なぜ、パウロがそのようなことを言うのか？確かに、コリントの教会は大きな問題を抱えている教会だったからです。皆さんもよくご存じのように、この教会は非常に墮落していました。コ

リント人への手紙を見ると、教会の中に考えられないようなことが起こっていたことが記されています。人々は大変な罪の中を生きていたのです。非常にプライドが高かった、教会の中に一致はありませんでした。この教会を見ると、裕福な人たちは自分たちだけで集まって愛餐を行なっています。貧しい人たちが入って来て何も食べる者も飲むものもないのです。困っている人に対して、必要のある人たちに対してだれも関心を払わない、自分たちさえ良ければ…という状態です。

また、教会のクリスチャンたちは自分がどんな賜物をもっているかを自慢し合っていました。だれが一番偉いのかということが彼らの関心でした。ですから、霊的でないコリントの教会、だれもこの町で牧師のカンファレンスを開くことなど考えません。この町では霊的な人になるために婦人の集まりをしましょうなんてだれも考えません。それ程酷い教会だったのですが、その教会のクリスチャンたちにパウロが与えたメッセージは、あなたがたに神が与えられた賜物は、他の神に賞賛されているテサロニケやピリピの教会のクリスチャンたちと何ひとつ変わらない、何ひとつ不足していない、何ひとつ劣っていないということです。

ということは、あなたの信仰の霊的状态にかかわらず、あなたが神の恵みによって救われたクリスチャンなら、神はあなたに特別な賜物を与えてくださっているということです。それがクリスチャンです。クリスチャンは神から霊的賜物をいただいている者たちです。今から、この霊的賜物について学びます。なぜ学ぶのか？これはあなたにとってとても大切なことだからです。というのは、あなたは神によって特別な者として造られ、そして、あなたに特別な賜物が与えられているからです。それは神があなたを用いようとしてくださっているからです。そのためには、自分にどんな祝福が与えられているのか、どんな賜物をいただいているのかを知ることが大切です。今からこのことを学ぶのは、あなたが自分の賜物をしっかり見つけて、その賜物を用いて神に仕えていって、あなたが祝されるだけでなく、あなたのその歩みによって教会全体が祝されるためです。そして、主の栄光が現わされるのです。だから、大切なのです。賜物を知ることです。賜物を生かすことです。そして、主に仕えていくことです。ですから、賜物についてみことばがどのようなことを教えているのか、五つのことを見ていきます。

◎「賜物」について

テキストとして、Iコリント12:1から見ます。1節に「さて、兄弟たち。御霊の賜物についてですが、」とあり、4節には「さて、御霊の賜物には…」とあります。

1) 賜物とは？

初めに、「賜物の定義」を見ましょう。「賜物」は「カリスマ」というギリシャ語が使われています。つまり、このことばの意味は「神の恵み、恩恵のギフト」です。特に、カリスマということばは「霊的賜物」と訳せます。新約聖書に17回出て来ることばです。パウロは「御霊の賜物」と言いました。これから話をする「賜物」とは、神が一方的にご自身の恵みによってクリスチャンであるあなたに与えられたものであると言っているのです。これはあなたが一生懸命努力をして…とか、あなたが望んで手にしたものではないのです。神が一方的にあなたにギフト、贈り物として与えてくれたものです。あなたがイエス・キリストを救い主として信じたとき、救いに与ったときに、その救いとともにご自身があなたに与えてくださったもの、それがこれから学ぶ「霊的賜物」と言われているものです。

2) 賜物の種類 4節

4節に「さて、賜物にはいろいろの種類がありますが、」と書かれています。「賜物」の種類を見ていきます。「いろいろの種類」とありますが、これは「様々な、多様性のある」という意味です。今見ているIコリント12章、これから見ていくローマ12章、そして、エペソ4章に「賜物についての教え」が記されています。この三つの箇所を見てそこに書かれている賜物を比較すると、みな同じではありません。もし、賜物が五つしかないなら、どこにもその五つのことが出て来るはずですが。そのリストが同じではないということは、よく似ているけれど違う賜物がたくさんあるからです。これからそれらを説明していきますが、パウロはIコリント12章で「賜物にはいろいろの種類がありますが、」と言って、賜物はたくさんあると言います。4節には「さて、賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。」とあり、6節には「働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。」とあります。そのことを覚えていただいてローマ書12章を見ていきましょう。

御霊の賜物にはいろいろな種類がある、働きにはいろいろな種類があるとIコリント12章で言ったパウロは、ローマ12:6-8で賜物について七つのことを教えています。それを見ていく前に、12:6を見てください。「私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、…」と、今、私たちが見たことをパウロはここで再び記しています。あなたは賜物をいただいているが、その賜物は「与えられた恵みに従って、」と、つまり、神ご自身がご自身の恵みに基づいてあなたに与えたものであると、再びパウロはこのように教えるのです。「異なった賜物を持っている」と言います。ということは、それぞれのクリスチャンが持っている賜物はすべて異なるのです。だから、先ほど見たように、いろいろな種

類があるのです。ちょうど、このようなことです。私たちがコーヒー豆を買うとき、ブレンドのコーヒーにはいろいろなブレンドの方法があります。Aというコーヒーを4割とBというコーヒーを6割でというブレンドが好きな人もいるでしょう。ある人はAが35%でBが65%がいいと言うかもしれません。たとえば、二つの賜物にしてもその量が違ったりするのです。そのように特別のブレンドをもって、神は特別にあなたにあなただけの賜物を与えてくれているということです。ここにおられる皆さんのその容姿がそれぞれ違うように、あなたに与えられた賜物もみな違うのです。それほどあなたは特別なのです。そのことをパウロはまず私たちに教えようとしているのです。そして、これはすべて神の恵みによってあなたに与えられたと言います。だから、あなたが持っている賜物は神の恵みによって与えられたものであり、そして、ひとり一人は異なった賜物を持っているということです。そのことを覚えてください。

そして、ローマ12:4には「一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、」とあります。パウロはからだをたとえにして説明しようとしています。Iコリント12:27にも「あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。」と書かれています。からだにはいろいろな器官があります。みな違った働きをします。同じように、あなたもキリストのからだにあって人と異なった働きをしようとするのです。だから、あなたは特別な存在だということです。あなたをお造りになった神はあなたを救いへと導いてくださった、そして、そのあなたにあなただけの特別な賜物を与えてくれているのです。これが少なくとも私たちクリスチャンに与えられた賜物についての教えです。なぜ、神はそうように賜物を与えてくださったのか？その理由は、あなたがそれを用いるためにです。

クリスチャンの皆さん、このようなことを考えていました。クリスチャンの奉仕において定年ってあるのかどうか？クリスチャンの奉仕において定年があるのかどうかです。ありません。それを決めるのはあなたではありません。神です。あなたを生かして下さっている神は、あなたに賜物を与えて、あなたを使ってく下さるのです。神がもう十分だ、この地上の働きは終わったとされるなら、神のもとに召してください。神がいのちを司っているなら、神があなたに今日という日を下さっているなら、神はこの目的をもってあなたを生かして下さっています。それはあなたが今日神に仕えることです。そのためにあなたに特別な賜物を与えてそれを用いなさいと言われるのです。

ですから、私たちクリスチャンがまず覚えなければいけないことは、賜物をいただいたということはそこに当然責任があるということです。私たちクリスチャンに奉仕において定年はないのです。天にいくときまで私たちは主に仕え続けていくのです。私たちは天に上がるまでみな働き人です。

◎七つの賜物について

さて、パウロが教える七つの賜物ですが、これは私たちはすでにローマ書の中で学んだところですから詳しくは見ません。簡単に説明していきます。ローマ12:6-8「私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。:7 奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教えなさい。:8 勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれをしなさい。」

(1) 預言 6節

6節に「私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。」と記されています。「預言」という賜物が存在します。私たちは「預言」とか「預言者」と聞くと、何となく未来の出来事を告げるかのように思いますが、実は、預言とは「神の啓示を受けてそれを人々の前に言い表わすこと」で、それを人々の前に宣べ伝える人のことを「預言者」と呼ぶのです。Iコリント14:30には「黙示」と訳されています。「もしも座席に着いている別の人に黙示が与えられたら、先の人には黙りなさい。」と、同じ意味です。「黙示」であっても「啓示」であっても、「神が隠しておられた真理を明らかにされた」ということです。ですから、神が働かなければ私たちが理解することの出来ない真理を、神がある人に明らかにして、その明らかにされた人がそれを人々の前で語ったのです。それがこの預言です。そういう賜物を神はある人々に与えたと言うのです。

だから、預言者というのは、神に代わって、神の名によって語る人たちです。神のメッセージを語った者たちです。そのような人たちはたくさん存在していました。使徒の働き15:32を見ると「ユダもシラスも預言者であったので、多くのことばをもって兄弟たちを励まし、また力づけた。」とあります。また、アガポという預言者のこともこのように記されています。使徒11:27-28「そのころ、預言者たちがエルサレムからアンテオケに下って来た。:28 その中のひとりでアガポという人が立って、世界中に大ききんが起ると御霊によって預言したが、はたしてそれがクラウデオの治世に起こった。」、使徒21:10-11「幾日かそこに滞在していると、アガポという預言者がユダヤから下って来た。:11 彼は私たちのところに来て、パウ

口の帯を取り、自分の両手と両足を縛って、「『この帯の持ち主は、エルサレムでユダヤ人に、こんなふう縛られ、異邦人の手に渡される』と聖霊がお告げになっています」と言った。」。

ですから、聖霊なる神がある人々に神のメッセージを語るようにと働かれるのです。なぜ、そのようなことが起こったのかと言うと、まだ、この聖書が完成していなかったからです。神のメッセージを人々が聞くために、神は特別にそのような働きをなさった訳です。ですから、Iコリント12:10を見ると「…ある人には預言、ある人には霊を見分ける力、…」と続いて書いてあります。なぜ、このように書かれているのか？恐らく、多くの方が「これが神からのメッセージだ」と語っていたからでしょう。それが本当に神からのものかということ判断する材料が、今なら聖書があるから私たちはそれが本当に聖書が教えていることかどうか判断することが出来ますが、聖書がないこの時代は神は特別な賜物のある人々に与えたのです。それは「霊を見分ける力」です。このメッセージが神からのものかどうかを見分ける力です。ですから、この二つが10節に並んで書かれているのを見た時に、多くの預言者たちが「これこそが神からのメッセージだ」と語り、そして、それが本当に神からのメッセージなのかをどうかを見分けることの出来る賜物が与えられた人が存在していたと、私たちはそのことを伺い知ることが出来るのです。

(2) 奉仕 7節

7節「奉仕であれば奉仕し、」、ここで使われているギリシャ語は「ディアコニヤ」ということばで、そこから「執事」、「婦人執事」ということばが出ています。これはいろいろな人々の物質的、身体的な必要に、あわれみをもって彼らに仕えていくという賜物です。様々な必要を抱えている人々に仕えて、その必要を満たしていこうとする賜物のことです。ですから、物質的に乏しい貧しい人たちや、体の弱っている人たちにあわれみをもって仕えていく賜物です。感謝なことに、そのような賜物を持っている人たちは私たちの群れの中におられます。この方々はそのような働きをしてくださっています。

(3) 教える 7節

7節に「教える人であれば教えなさい。」とあります。神のおことばである聖書の真理を人々に分かり易く伝えていく、そういう賜物です。しかも、教師とは一回きりではなくて継続して組織的にその人たちを訓練して教えていく、そのような賜物です。使徒の働き18:24-25「さて、アレキサンドリヤの生まれで、雄弁なアポロというユダヤ人がエペソに来た。彼は聖書に通じていた。:25 この人は、主の道の教えを受け、霊に燃えて、イエスのことを正確に語り、また教えていたが、ただヨハネのバプテスマしか知らなかった。」、IIテモテ2:2「多くの証人の前で私から聞いたことを、他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい。」と、このような人たちはたくさんいます。日本では少ないかもしれませんが、海外ではそこにクリスチャンたちの大学があって、そこではクリスチャンの教授たちがこのような賜物を生かして、継続して、神のことばを教えていたりします。もちろん、神学校のレベルもそうです。もっと私たちの身近なところを見ると、教会の中では日曜学校の先生方もそうです。神の真理を分かり易く、しかも、継続して教えていこうとしています。このような賜物をもっている方々はこの教会の中にも与えられています。

(4) 勧める 8節

8節に「勧める人であれば勧め」とあります。この「勧める」ということばは「パラクレオ」というギリシャ語です。初めの「パラ」は「傍ら」、そして「クレオ」は「呼ぶ」という意味です。ですから、自分の傍らに呼んだということです。実は、ここで使われている「勧める」というギリシャ語と、ヨハネの福音書14章16節に記されているイエスが使われたことばは非常に関連しています。「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。」と、聖霊に関することですが、この「助け主」ということばが、今見ている「勧める」と非常に関連したことばです。この「勧める」という賜物は、弱っている人の横に行ってその人を励ますのです。その人が神の道から外れているなら、神の道を正しく歩んでいくように励ますのです。信仰が弱っているならその人を慰めて励ましていくのです。神のおことばを用いてその人たちを励ましたり、また、時にはその罪に対して警告を与えることも必要かもしれません。

いずれにしろ、この賜物をもっている人は兄弟姉妹たちが正しく歩んでいくように、神を見上げてしっかり歩んでいくように、そのような勧めを為す人たち、励ましを為す人たちです。ヘブル人への手紙10:24に「また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。」とある通りです。こういう賜物を持っている人たちは非常に大切です。もちろん、このような賜物を自分は持っていないから、その働きをしなくてもいいというわけではありません。私たちクリスチャンの責任では兄弟姉妹たちが間違っていることをしているとき「いやー、私には賜物がありませんから…」とは言えません。だれかが溺れていたら「私は水泳が出来ませんから…」と言い捨てないで、だれかを呼ぶとか、何らかの方法を考えませんか？だから、私たちも兄弟姉妹が罪に陥っていたら、彼らが罪を悔い改めるように、当然、時には彼らを戒めたり、正しい道に帰って来るようにと勧めを為すことが必要です。し

かし、ここで言われている賜物とは、特にそのような働きに神が重荷を与えてくださっている人たちのことです。

(5) 分け与える 8節

8節「分け与える人は惜しまずに分け与え」、人の必要のために心から犠牲的にささげる人たちです。あのマケドニヤの教会のことを思い出しませんか？マケドニヤの教会は非常に貧しい教会でした、Ⅱコリント8章にそのことが書かれています。8：1-5「さて、兄弟たち。私たちは、マケドニヤの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせようと思えます。：2 苦しみゆえの激しい試練の中にあっても、彼らの満ちあふれる喜びは、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となったのです。：3 私はあかしします。彼らは自ら進んで、力に応じ、いや力以上にささげ、：4 聖徒たちをささえる交わりの恵みにあずかりたいと、熱心に私たちに願ったのです。：5 そして、私たちの期待以上に、神のみこころに従って、まず自分自身を主にささげ、また、私たちにもゆだねてくれました。」、大変貧しい教会だったから、「自分たちは貧しいのだから私たちにください」と言ってもおかしくないのに、マケドニヤの教会は違いました。極度の貧しさの中にあっても彼らが考えたことは「どのようにしてみんなを助けようか？」ということでした。彼らはその中でささげることが止めようとはしなかったのです。神は大いに祝され、この教会は大いに用いられました。何よりも彼らは天においてすばらしい宝を積んでいます。

この賜物を持っている人たちは、人々の必要を見てその必要に喜んで犠牲を払おうとする人たちです。感謝なことに、このような賜物を持っている人たちがこの教会の中にいます。私たちが覚えなければいけないのは、主のために為すわざはみな天に宝を積むことになるということです。私たちが考えなければいけないことは、私たちが持っているものはみな神から与えられたものだということです。自分にはないから…と言って私たちはそのことをひがんだりしません。でも、私たちそれぞれが考えなければいけないことは、たくさん与えられた者も少ない人も同じように賢く使うことです。部屋数のたくさんある家を与えられた人は、それをどのようにして神のために用いるかを考えることです。小さかったらそれなりに神のためにどのように用いるかを考えることです。

というのは、私たちの持ち物はみな神が私たちに託されたものであり、私たちのいのちも健康もすべて神が私たちに託してくださったからです。だから、すべてを用いて神のために生きようとするのです。皆さん、そのようにして生きておられるでしょうか。「私のいのちも神のもので。だから、このいのちが続く限り、神が良しと言われるその日まで主に仕えていきましょう。」と、そのようにして生きているでしょう、皆さん？与えられたものを地上にどれ程蓄えても、私たちはこの世を去る時は裸で去っていきます。それなら、地上ではなくて天に宝を積もう、神のためにすべてのものを用いていこうと、皆さんはそのようにしておられます。この賜物を頂いた人たちはそのような人たちです。もっともっと主のためにささげていこう、もっと人々の必要のためにささげていこう。このような賜物を神は与えてくださるのです。

(6) 指導 8節

8節に「指導する人は熱心に指導し」と書かれています。この「指導」と訳されていることばは、他の箇所を見ると「治める」と訳されています。Ⅰテモテ3：4, 5, 12には「：4 自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人です。」「：5 ——自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会の世話をすることができるでしょう——」「：12 執事は、ひとりの妻の夫であって、子どもと家庭をよく治める人でなければなりません。」とあって、同じことばがここでは「子どもや家庭を治める」という意味で使われています。ですから、この人は自分が教会のどのポストについているかに関係なく、こういうリーダーシップをしっかりと発揮する人たちです。それが教会であろうと、家庭であろうと、信仰のリーダーとしてしっかりみことばに沿って家族を導いていこうとする、信仰のリーダーとして自分の周りの者たちを導いていこうとする、そのような賜物が与えられている人は益々そのようにしなさいとパウロは勧めるのです。Ⅰテサロニケ5：12には「兄弟たちよ。あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主にあってあなたがたを指導し、訓戒している人々を認めなさい。」と、また、Ⅰテモテ5：17にも「よく指導の任に当たっている長老は、二重に尊敬を受けるにふさわしいとしなさい。みことばと教えのためにほねおっている長老は特にそうです。」と書かれている通りです。

(7) 慈善 8節

8節の終わりに「慈善を行う人は喜んでそれをしなさい」とあります。それぞれの賜物には関連したところがあります。ですから、この最後の「慈善」も先ほどから見ているように、必要のある人たちに対する働きかけです。苦しんでいる人、悲しんでいる人がいると、何かしたい、何かをもって彼らを励ましたいと、恐らく、この中にもそのような重荷を神から度々頂いている人がいるはずで。それゆえに、いろんな働きが始まって来ました。神は皆さんの心の中にそのような重荷をくださるのです。いろいろな機会にいろいろな必要を耳にした時に、その必要に対して特に重荷を感じるのです。何とかその働きに

答えていきたい、何とかその必要に答えていきたいと、その日はそのまま過ぎ去ったとしてもその思いが繰り返し自分の心に出て来ると。ですから、この人たちは、入院されている人に会ったり、差別されたような環境にある人たち、身体的に障害を負っている人など、いろいろな人たちに手を差し伸べていこうとするのです。

結論

今、私たちはこれら七つのことを簡単に見て来ました。確かに、七つのいろいろな賜物を見て来ました。用いていただけることはクリスチャンの特権です。私たちはそのように生きること、そして、いただいている賜物をもって教会の中で働きを為すことです。神からいただいた重荷を行動をもって現わすのです。さて、それを踏まえた上で、今日のテキストの I コリント 12 章に戻ってください。その上でこの賜物の用途について見ていきます。

3) 賜物の用途 5 節

パウロはすでに「賜物とはいったい何なのか？」を教え、「賜物には種類がある」ことも教えてくれました。次は「賜物の用途」です。I コリント 12 : 5 に「奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。」とあります。「奉仕」ということばが出て来ます。どんな賜物を頂いているとしても、私たちが忘れてはいけないこと、それは私たちは賜物を用いて奉仕して行くということです。賜物を用いて仕えていくのです。コリント教会の過ちは、自分にどんな賜物が与えられているかを自慢し合っていたことです。「私はこれだけの賜物を頂いているから私は霊的ですよ」と。パウロは「それは違う」と言います。賜物は神からのギフトです。その賜物を頂いた特別なあなたは、その賜物を用いて仕えていきなさいと言います。だから、奉仕なのです。

ペテロは I ペテロ 4 : 10 でこのように言っています。「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。」と。みな賜物を頂いているのだから、良い管理者としてそれを正しく使っていきなさいと言います。ただ、倉庫に置いておくのではダメだ、使うために与えられているのだから使いなさいと言います。そして「互いに仕え合っていきなさい」と、「どちらが偉い」ではなく、私はこの人たちに仕えよう、それぞれがこの人たちに仕えようと互いに仕え合うことによって、そこには争いではなく一致が生まれて来ます。

皆さん、私たちはみな例外なく仕える者たちの集まりなのです。人々の信仰の成長のために、兄弟姉妹の信仰の成長のために仕えていこうとするのです。そのために神はあなたに特別な賜物を与えてくださったのです。

4) 賜物と力 6 節

6 節をよく見ると、ここには「賜物と力」が記されています。「働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。」と。今、見て来たように、神は皆さんひとり一人に特別な賜物を与えたとあります。みんな与えられている賜物は違う、そして、その賜物を用いて仕え合っていきなさいと…。さて、その賜物を用いることに関して、主に仕えていく、人々に仕えていくその力はどこから来ますか？我々がその賜物を用いて主に仕えていくために、人々に仕えていくために必要な力はどこから来ますか？今のみことばは私たちに何と教えていますか？「神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です」と。つまり、私たち信仰者が覚えなければいけないのは、神は確かに私にすばらしい賜物をくださった。それは私だけの特別な賜物です。この賜物を用いなさいと神は私に命じられた。その賜物を用いるために神は何とそれを実践するための力も助けもくださっているのです。すごいことだと思いませんか？神はここまでちゃんとご配慮なさっているのです。私たちがどんなに弱い存在かを知っておられるのです。

こうしてみことばを見た時に、だれ一人「出来ない」という言い訳は出来ません。「20年前だったら…」とは言えないのです。神のことばは生きているのです。今のあなたの中に働いているのです。しかも、神はあなたが今置かれている状況を知っているのです。腰が痛いことも、記憶が鈍っていることも、体中が痛むことも、何かやったら一週間後に痛みが出ることも、一週間寝込むことも知っているのです。その上で神は「わたしはあなたに助けを力を与える」と言われるのです。私たち信仰者はだから、「神さま、不安はいっぱいあるし、正直、どうなるか分からないけれども、でも、あなたがそうおっしゃっているなら、どうぞ私を使ってください。」と、そのように言えませんか？なぜなら、これが神の約束なのです。今、私たちは神のみことばを見ているのです。神がどんなことをあなたに教えておられるのかを見ているのです。願わくは、私たちはいつも神が言われることを聞いた時に、「神さま、そのように私は生きていきたいです。」と応答して、神を信頼してその教えに従っていきたいものです。

この中にそのように決心して、そのように生きていきたいと今思う方がいらっしゃるでしょう。神があなたを祝してくださるようにと心から願います。そうして私たちは生きていくのです。そのようにし

て生きることによって、私たちはこの地上での生活を全うすることが出来るのです。そうでなければ、私たちは時間を無駄に過ごしてしまうのです。せつかく神が賜物を与えてくださり、助けまで与えてくださり、私たちを使ってください、そして、そのことによって神の栄光が現わされ、兄弟姉妹たちの信仰が成長するようにしてくださっているのに、私たちがその神のみこころに従わなかったら、それは無駄な人生です。神が事を行なわせてくださるとそのことを教えました。

5) 賜物の目的 7節

7節に賜物が与えられた目的が書かれています。「しかし、みなの益となるために、おのおのに御霊の現れが与えられているのです。」。あなたに賜物が与えられたのはあなたのためだけではないのです。周りの兄弟姉妹のためなのです。彼らの信仰が成長するために神はあなたにその賜物を与えてくださったのです。そして、あなたが働きを始めていくなれば、神はあなたを使ってください、あなたの信仰が成長し、あなたの周りのクリスチャンたちが成長し、そして、究極的に神のすばらしさが現わされていくのです。

少し補足説明しますが、今見て来ている「御霊の賜物」、「霊的賜物」は同じことですが、これは持って生まれて来た才能とは違います。持って生まれて才能とは、例えば非常に足が速い人は、クリスチャンでなくてもいます。クリスチャンはあわれみを持っていると言いますが、クリスチャンでなくても、クリスチャン以上にあわれみ深い人は世の中にたくさんいます。ここで言われている賜物とは、イエスキリストを信じた時に神ご自身が与えてくださった特別な賜物のことです。神は何のために私たちクリスチャンに賜物を与えてくださっているのでしょうか？

結論

(1) 賜物が与えられている

(2) 賜物を用いるための力も備えられている

神はあなたに賜物を与えてくださった。神はあなたが働き人として奉仕する者として歩み続けることを望んでおられ、そのことを命じています。信仰者の皆さん、あなたの賜物が何であるか分からなくても、教会の中で働きを始めていくことです。私に何かすることがないか？何か出来ることがないか？と。もし、あなたが神の前に「神さま、私はあなたにもっと用いられます。仕えていきたいです。どうぞ働きを示してください。」と願うなら、神は必ずあなたの心の中にいろんな重荷をくださるでしょう。その重荷は、もしかすると、私たちの教会でまだ為されていない働きかもしれません。神は不思議な方法であなたに働いて、そして、その奉仕を始めてくださるのです。

ロサンゼルスに行くと「GRACE TO YOU」という大きな建物があります。そこではマッカーサー先生のメッセージがCDなどにされて世界中に送られていきます。マッカーサー先生たちの本がそこから世界中に出ていきます。今行ってみると、もの凄く大きな建物でびっくりします。なぜこのような働きが始まったのでしょうか？ある一人の教会員がマッカーサー先生のメッセージを何とか他の人にも聞かせたいと思って、それを録音して他の人に配ったのです。そこからその働きが始まったのです。そして、それが今世界中の多くのクリスチャンたちを励ます働きとなっているのです。そして、もう一つのことがあります。その建物の中を廻っていくと、神のなさったすばらしいみわざを見ることが出来ます。最後に連れて行かれる一つの所は、荷物を送るパッケージを作る場所です。「ここが一番大切な所です。」と言われます。確かにそうです。ここから世界中に荷物が送られていくからです。でも、皆さん、驚くことは、そこで働いておられる皆さんを見たときです。もうリタイアなされた人たちです。ずっと昔に定年を迎えた人たちです。恐らく、彼らの平均年齢は70歳ではきかないでしょう。彼らはまだ神の前に機会を求めているのです。「私はまだリタイアしません。あなたがくださった賜物を用いてあなたに仕えていきます。」と。そして、その人たちの働きが世界中に広がっているのです。

リタイアするには早過ぎます、皆さん！神はあなたにすばらしい賜物を与えてくださり、それを実践する力までも与えてくださった。その賜物を用いて主に仕えることです。「主よ、私にもさせてください。あなたがくださった賜物を用いてあなたに仕えていきたいし、教会にあって人々に仕えていきたいです。どうぞ私を使ってください。」と。あなたがそのような人に変えられ続けていくことを願います。そういう人が必要だからです。なぜなら、その人は神のみこころに従おうとしている人だからです。そういう人を神様は祝されるし、神はお用いになるし、そういう人たちの集まっている教会を神は祝されるからです。

どうぞ、そんな信仰者にあなたが変えられていくようにと心から祈ります。そして、神の栄光のために、神の約束を信じて歩む信仰者へとひとり一人成長していきましょう。

《考えましょう》

1. この「賜物」は、才能のことでしょうか？

2. 賜物の種類を挙げてください。
3. 賜物があなたに与えられた理由は何でしょうか？
4. 各クリスチャンに与えられた賜物を用いることは主のみこころです。
では、どうしてあなたが賜物を用いることが大切なのでしょう？
教会にはたくさんのクリスチャンがいるのだから、自分一人位賜物を用いなくても何ら問題がないように思う人がいます。どうして、この考えが間違っているのでしょうか？